

# 初等教育における アクティブ・ラーニングの実践 ～資質・能力を育成する学びの創造～

北海道教育大学附属函館小学校研究局

溝口 仁志 冬野 恒史 阿部 智

神野藤 均 伊藤 光 阿保 裕也

## 内容

### 1. 研究主題説明

アクティブ・ラーニングとは？

なぜアクティブ・ラーニングなのか？

アクティブ・ラーニングで育む資質・能力とは？

### 2. 今年度の研究内容

今までの研究から

【研究内容1】「三つの視点」を生かしたアクティブ・ラーニングの授業実践

【研究内容2】各教科等において育成すべき資質・能力の明確化

今年度の研究内容まとめ

### 3. 指導案形式

引用・参考文献

# 1. 研究主題説明

## アクティブ・ラーニング(AL)とは？

ALに関しては多様な考えがあります<sup>1</sup>。先行研究と本校の研究成果を生かし、ALの構成要素を「自主的・主体的な学び」「協同<sup>2</sup>的な学び」「課題解決型の学び」図1と押さえました。この三つの構成要素を意識した学びの展開により、資質・能力を育む学びを創造していきます。



図1 アクティブ・ラーニングの構成要素

## なぜアクティブ・ラーニングなのか？

中央教育審議会教育課程企画特別部会における「論点整理」(2015. 8.26)では、まず、将来の変化が激しく、予想が難しい21世紀の社会では、社会の変化に受身に対応するのではなく、子供一人一人が、その可能性を最大限に発揮し、よりよい社会と幸福を自ら作り出していくための資質・能力の育成を求めています。さらに、そのためには、解き方があらかじめ定まった問題を効率的に解ける力を育むだけでは不十分であり、蓄積された知識を礎としながら、膨大な情報から何が重要かを主体的に判断し、自ら問いを立ててその解決を目指し、他者と協働しながら新たな価値を生み出せるように、必要な資質・能力を身に付ける教育が重要であると打ち出しています。

このような資質・能力を身に付けていくためには、教師の一方的な知識の伝達だけでなく、子供自らが課題を設定し、そして

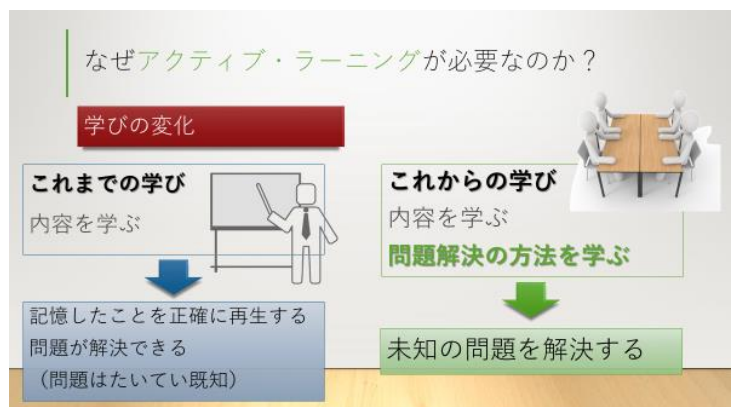


図2 これまでの学びからこれからの学びへ

<sup>1</sup>本校の研究で参考になっているALの定義は次の3点となります。

「教員による一方的な講義形式の教育とは異なり、学修者の能動的な学修への参加を取り入れた教授・学習法の総称。学修者が能動的に学修することによって、認知的、倫理的、社会的能力、教養、知識、経験を含めた汎用的能力の育成を図る。発見学習、問題解決学習、体験学習、調査学習等が含まれるが、教室内でのグループ・ディスカッション、ディベート、グループ・ワーク等も有効なアクティブ・ラーニングの方法である。」[中央教育審議会、「質的転換答申」(用語集)、2012]

「一方的な知識伝達型講義を聴く(受動的)学習を乗り越える意味での、あらゆる能動的な学習のこと。能動的な学習には、書く・話す・発表するなどの活動への関与と、そこへ生じる認知プロセスの外化を伴う。」[溝上慎一、「アクティブ・ラーニングと教授学習パラダイムの転換」、2014]

「課題の発見と解決に向けて主体的・協働的に学ぶ学習(いわゆる「アクティブ・ラーニング」)」[中央教育審議会、「初等中等教育における教育課程の基準等の在り方について」(諮問)、2014]

<sup>2</sup> 文部科学省では、ALに関して「協働」の文言を使用していますが、本校では「協同」を意図的に使用しています。「協働:同じ目的のために、協力して働くこと」「協同:複数の個人や団体が心や力を合わせて同じ目的、共通の利益を守るために事にあたること」(大辞林)。どちらの文言も「同じ目的に向かつて力を合わせ物事を行う」という意味では大きく違いはありません。初等教育ではとくに、目的が一緒だから協力するだけでなく、学級の友達と心を通わせる態度そのものに価値があると押さえています。友達と心や力を合わせて目的にむかって事にあたる経験が、将来にわたって他者と協働する資質・能力に通じていくものとして押さえ、本研究では「協同」の文言を使用しています。

仲間と共に解決していく学び，すなわち AL の積み重ねが必要です。このような学びの積み重ねにより，子供は生涯にわたり，多様な場面において「使える」いわゆる汎用的な資質・能力を身に付けていきます。この汎用的な資質・能力こそが21世紀に求められる学力なのです。

## アクティブ・ラーニングで育む資質・能力とは？

国立教育政策研究所では「資質・能力を育成する教育課程の在り方に関する研究報告書1」のなかで「21 世紀に求められる資質・能力の構造一例」図3として，次のように構造化しています。「深く考える力(思考力)，問題解決・発見，論理的・批判的・創造的思考，メタ認知・学び方の学び」を中核として，それを支える「道具や身体を使う(基礎力)言語，数量，情報」，その使い方を方向付ける「未来を創る(実践力)自律的活動，関係形成，持続可能な社会づくり」という三層構造で示しています。また，その内容を表1「21 世紀に求められる資質・能力の内容(イメージ)」として整理しています。

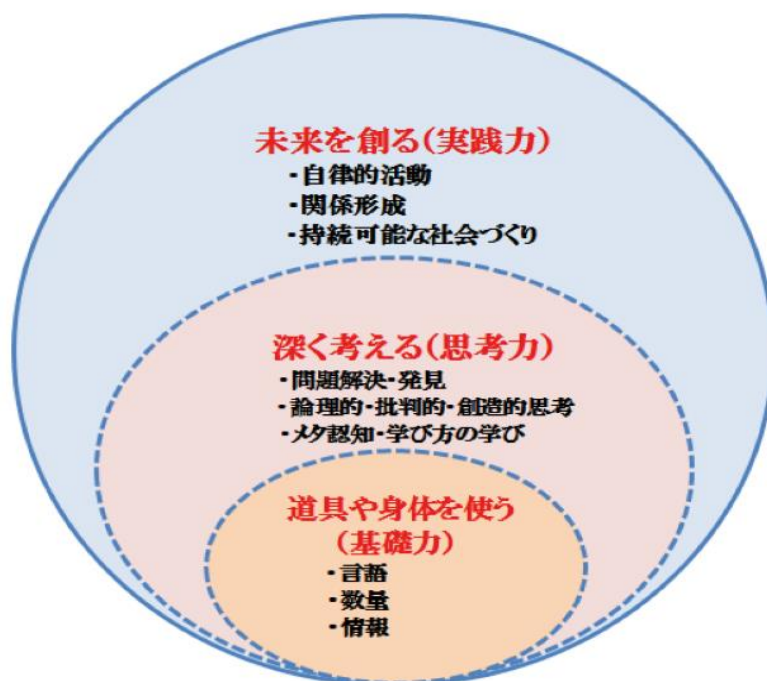


図3 21 世紀に求められる資質・能力の構造一例(出典:国立教育政策研究所)

表1 21 世紀に求められる資質・能力の内容(イメージ) (出典:国立教育政策研究所)

	求められる力 (イメージ)	構成要素
未来を創る (実践力)	生活や社会，環境の中に問題を見だし，多様な他者と関係を築きながら答えを導き，自分の人生と社会を切り開いて，健やかで豊かな未来を創る力	自律的活動 関係形成 持続可能な社会づくり
深く考える (思考力)	一人一人が自分の考えを持って他者と対話し，考えを比較吟味して統合し，よりよい答えや知識を創り出す力，更に次の問いを見付け，学び続ける力	問題解決・発見 論理的・批判的・創造的思考 メタ認知・学び方の学び
道具や身体を 使う (基礎力)	言語や数量，情報などの記号や自らの身体を用いて，世界を理解し，表現する力	言語 数量 情報 (デジタル，絵，形，音等)

本校では上記の考えを参考にして，資質・能力の具体化を図りました。以下，その方法を説明します。まず，本校の指導案や実践資料から私たちが育てたいと願った資質・能力や実際に育まれたと判断した資質・能力に関する文言を集めました。次に，その文言を AL の構成要素である「自主的・主体的な課題解決に関わる資質・能力」と「協同的な課題解決に関わる資質・能力」の二つの視点と課題解決の過程である「開始

期・展開期・まとめ期」に基づいて分類・整理し、本校の実践に基づいた「初等教育におけるアクティブ・ラーニングで育成する資質・能力」表2としてまとめました。

私たちは、この資質・能力は汎用的な特性をもつため、各教科等において横断的・継続的に育成できると考えています。そして、明らかになってきた「初等教育におけるアクティブ・ラーニングで育成する資質・能力」を各教科、道徳そして総合的な学習の時間の授業や学校行事の運営などにおいて意図的に育んできました。具体的には、各単元において明確にした育んでいく資質・能力を、授業構想の指針とし、指導案上に位置付けて実践を進めました。

表2 初等教育におけるアクティブ・ラーニングで育成する資質・能力（出典：北海道教育大学附属函館小学校）

	自主的・主体的な課題解決に関わる資質・能力	協同的な課題解決に関わる資質・能力	
開始期	<p><b>①事象に思いや願い、興味・関心をもつ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新しい発見や驚きに喜びを感じる</li> <li>・事象に思いや願い、興味・関心をもって学ぶ</li> <li>・学習に必要性や必然性を感じる</li> <li>・自分の力で学習を進める</li> </ul>	<p><b>②課題を明確にして、解決の見通しをもつ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子供自身が課題を見出す</li> <li>・目標や課題意識をもち活動する</li> <li>・常に課題に向き合う</li> <li>・課題を再考する</li> <li>・よりよい課題解決の方法を考える</li> <li>・課題解決の方法や手順を考え、見通しをもつ</li> </ul>	
展開期	<p><b>③考えや情報を整理する</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・必要な情報を比較・関連・総合する</li> <li>・事象を比べたり、関係付けたりする</li> <li>・情報を整理・分析する</li> <li>・自分の考えを形成・深化させる</li> <li>・自分の考えを再構成する</li> <li>・新たな考えを生み出す</li> <li>・気付きが豊かになる</li> <li>・試行錯誤する</li> <li>・自分で判断したり、選択したりする</li> <li>・より妥当性の高いものを目指す</li> </ul>	<p><b>④考えを表現する</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の考えを他者に伝えようとする</li> <li>・より多くの考えを表出する</li> <li>・根拠を明らかにして、目的に応じて適切に表現する</li> <li>・自分なりの方法で対象にかかわろうとする</li> </ul>	<p><b>⑤協同する（相互補完型）（練り合い型）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・積極的にコミュニケーションを図る</li> <li>・他者と適切にかかわる</li> <li>・他者の考えを聞こうとする</li> <li>・他者との考えを比較する</li> <li>・他者との考え方や感じ方の違いに気付く</li> <li>・他者の考えを受け入れながら活動する</li> <li>・学習の成果を互いに補完し合う</li> <li>・学習の中で生まれた知識や考えを共有する</li> <li>・他者と協同して課題を解決する</li> <li>・考えを伝え合うことで、互いの考えを深める</li> <li>・課題解決に向けて話し合う</li> </ul>
まとめ期	<p><b>⑥自分の学習を振り返り、次の学習に生かす</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習を振り返り、自分の言葉で学習をまとめる。</li> <li>・学習を振り返り、次の課題や見通しを見出し、次の学習に生かそうとする。</li> <li>・学習の価値を実感し、学習への意欲や期待感を高める</li> <li>・対象への気付きを自覚化する</li> <li>・自己の成長を実感する</li> </ul>		<p><b>⑦協同することの価値に気付く</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・他者と学習することに喜びを感じる</li> <li>・集団で学習した方が効率的に学習できることを実感する</li> <li>・集団への所属感を高める</li> <li>・互恵的な学習を自覚化する</li> <li>・他者の学習の役に立ったという喜びから自己有用感を高める</li> <li>・表現することの喜びを実感することができる。</li> <li>・相手意識もつ</li> <li>・相手を尊重する</li> </ul>



## 2. 今年度の研究内容 ～資質・能力を育成する学びの創造～

### 今までの研究から

昨年度は 21 世紀型の学力を身に付けていく子供の育成を目指し、実践を積み重ね研究を進めてきました。研究成果から、AL の構成要素である「課題解決型の学び」「自主的・主体的な学び」「協同的な学び」と関連した、より具体的な視点を見出すことができました。それらの視点を図4に示します。

課題解決型の学びに関わって…

**視点 1 : 学びの文脈（ストーリー）がある単元を構想する**

協同的な学びに関わって…

**視点 2 : 必要感のある協同的な学びを設定する**

自主的・主体的な学びに関わって…

**視点 3 : 目的に応じた弾力的な振り返りを設定する**

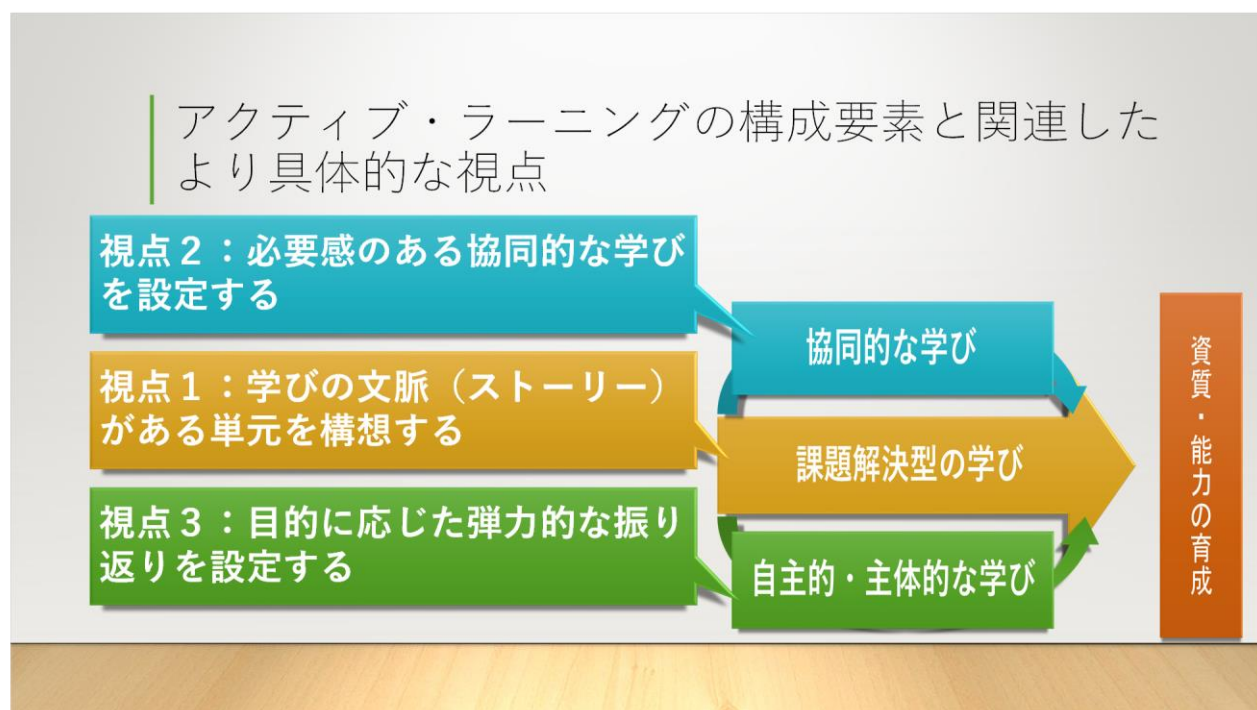


図4 AL の構成要素と関連したより具体的な視点

本研究は当初 3 年次計画でしたが、今年度は上記の視点を踏まえた実践、および検証を図るべく、「資質・能力を育成する学びの創造」を目指し、初等教育におけるアクティブ・ラーニングの実践研究を継続していくことにしました。以下、研究内容について説明します。

## 【研究内容1】「三つの視点」を生かしたアクティブ・ラーニングの授業実践

研究内容の一つ目は、昨年度までの研究から見出した三つの視点を生かした授業実践図5です。それぞれの視点について説明します。

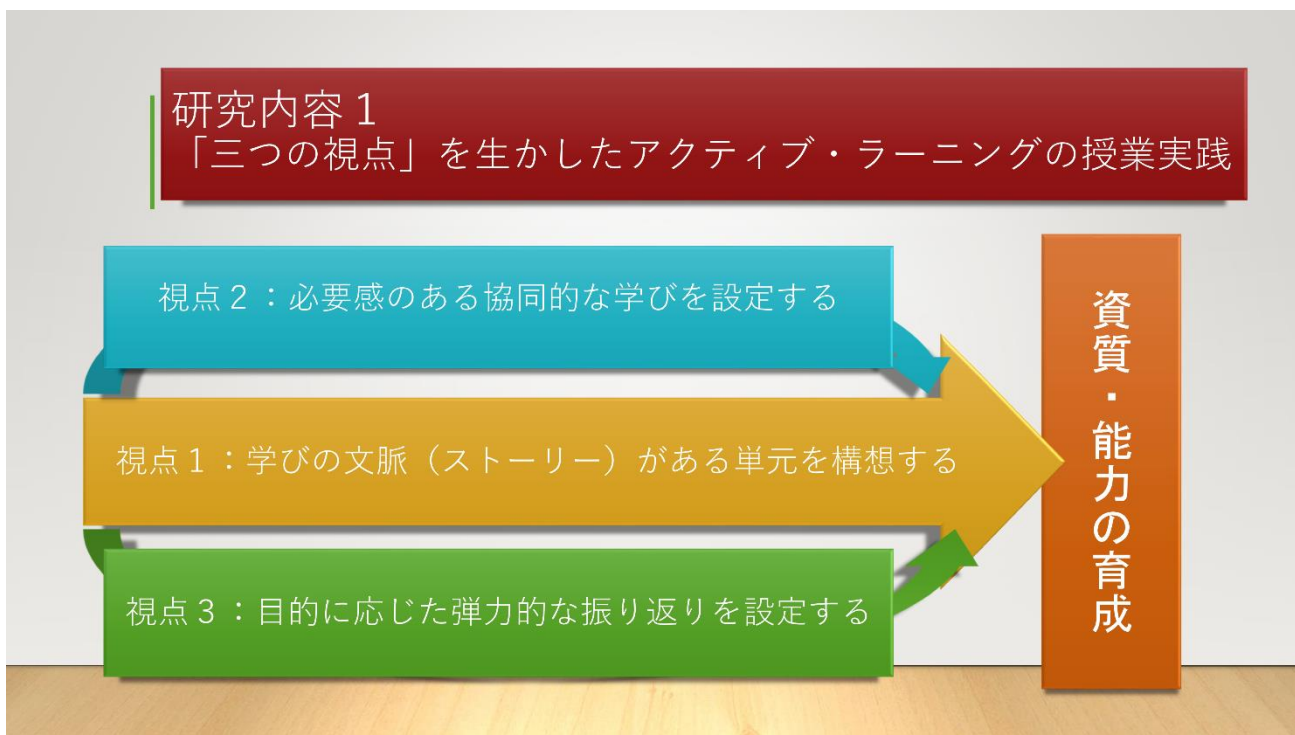


図5 「三つの視点」を生かしたアクティブ・ラーニングの授業実践

### 視点1 学びの文脈(ストーリー)がある単元を構想する

ALは学習者の能動的な学び、すなわち子供の自主的・主体的な学びをどのように導くかが重要なポイントとなります。その一つの手立てが課題設定の工夫です。昨年度の研究では、図6にある課題設定の要素を取り入れることにより子供は課題意識を高め、意欲的に学びに向かう姿が見られました。また、教科や単元によっては、子供と学習計画を立てる学習活動も効果的でした。子供と学習の目的や価値、学習の流れなど

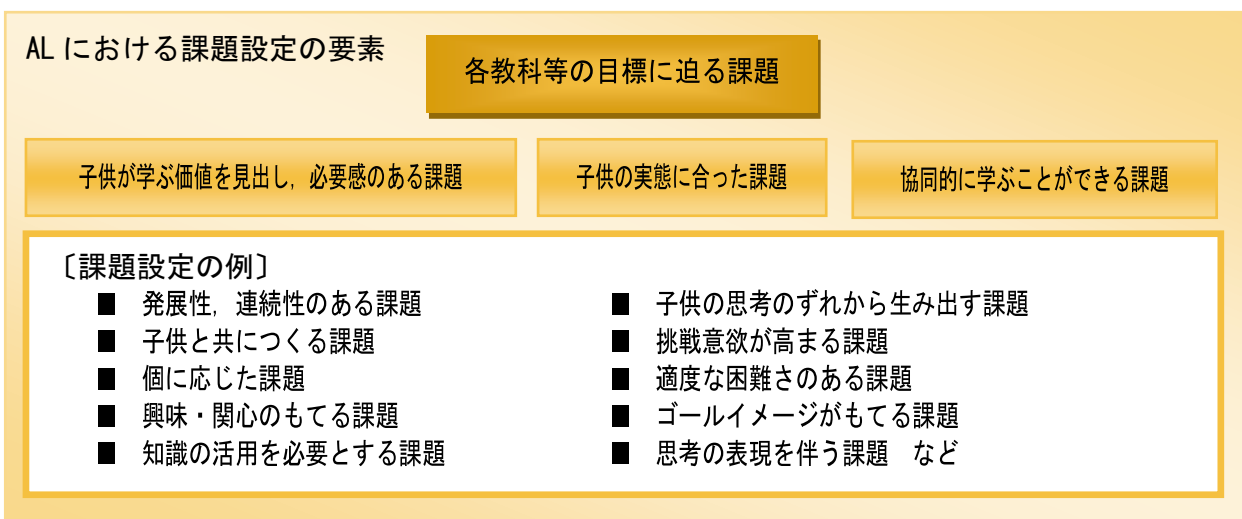


図6 ALにおける課題設定の要素

を確認し、学びの全体像を共有することにより、知識や技能の習得場面においてもその必要性を理解した学びが展開されました。

さらに、前時の学びが次の学びに生かされたり、学びの中で生まれた課題の解決を図っていったりするよう、学びの連続性を生む単元の構想により、子供は学ぶ価値を実感し、生涯にわたって学ぶ意欲につながるものと考えます。

**視点1**  
学びの文脈（ストーリー）がある単元を構想する

- 学びの文脈とは...

子供が学びの連続性、必要性、関連性を自覚しながら展開する学習過程

- そのために...
- 前時の学びを次の学びに生かす
- 学びの中で生まれた課題の解決を図る
- 課題設定を工夫する
- 教師の指導性と子供の主体性のバランスを図る
- 子供と学習計画を立てる など

このように、教師から一方 **図7 学びの文脈がある単元を構想する** 的に提示された課題を解決するのではなく、子供が学びの連続性、必要性、関連性を自覚しながら展開する学習過程を「学びの文脈（ストーリー）」と私たちは押さえ、図7にまとめました。そして、それを構想することが重要であると私たちは考えました。

また、ALを実践していく中で、授業時間のすべてをALで展開しなくてもよいケースがある点も明らかになりました。私たちは単元レベルで考えたときに、教師による知識伝達型の授業も必要だと押さえています。教師は知識や技能を教える場面と、子供に思考・判断・表現させる場면을効果的に設計した指導・支援が求められるのです。

このように、課題設定により子供の学びへの意欲を高め、子供の思考を想定し、学びの成果や課題を次の学びへの連続させること、さらに教師の指導性と子供の主体性のバランスを取ることで学びの文脈をつくっていきます。

なお、この視点1は中央教育審議会論点整理において示されている指導方法の不断の見直しの視点である「1) 習得・活用・探究という学習プロセスの中で、問題発見・解決を念頭に置いた深い学びの過程が実現できているかどうか<sup>3)</sup>」との関連も見出すことができます。

<sup>3)</sup> 新しい知識や技能を習得したり、それを実際に活用して、問題解決に向けた探究活動を行ったりする中で、資質・能力の三つの柱に示す力が総合的に活用・発揮される場面が設定されることが重要である。教員はこのプロセスの中で、教える場面と、子供たちに思考・判断・表現させる場면을効果的に設計し関連させながら指導していくことが求められる。[教育課程企画特別部会。(2015). 論点整理. 文部科学省.]

## 視点2 必要感のある協同的な学びを設定する

図8に示したように学びの文脈をつくるうえでは、どのような形で協同的な学びを設定していくかも重要なポイントになります。協同的な学びというと、ペアやグループといった学習形態が思い浮かびます。これらの学習形態は子供が協同的な学びを必要としているときにその場が保障されている点が重要

図8 必要感のある協同的な学びを設定する

です。したがって、「友達の考えを知りたい」「自分の考えを友達に伝えたい」「もっと考えを深めたい」「自分の力だけでは解決できない」など子供が課題解決のために他者を求める場面を教師が創出できるかが問われます。

このような必要感のある協同的な学びの中で、子供は対話など自分の考えを表現する活動を通して、物事をより確かに理解し、思考を広げ深めていきます。さらに、友達と意見を比較することで自己の学びを客観的に見る視点も育まれます。この学びを客観的に見る視点が自己の学びを振り返る場面で生かされ、自己評価力を高めていく様子が見られました。

このような学びの経験から、子供は「友達と話していたらよくわかった」「そんな考え方もあるのか」「友達に自分の考えを認めてもらってうれしい」「協力して考えたから解決できた」「みんなで考えるとより良い考えが生まれる」というように協同的に学ぶ価値を実感していきます。協同的な学びの価値を実感した子供は協同的な学びの必要性を子供自身が高め、次の学びでも必要感をもち、協同的な課題解決を図っていくのです。

なお、この視点2は中央教育審議会論点整理において示されている指導方法の不断の見直しの視点である「ii)他者との協働や外界との相互作用を通じて、自らの考えを広げ深める、対話的な学びの過程が実現できているかどうか<sup>4</sup>」との関連を見出すことができます。

<sup>4</sup> 身に付けた知識や技能を定着させるとともに、物事の多面的で深い理解に至るためには、多様な表現を通じて、教師と子供や、子供同士が対話し、それによって思考を広げ深めていくことが求められる。こうした観点から、前回改訂における各教科等を貫く改善の視点である言語活動の充実も、引き続き重要である。[教育課程企画特別部会。(2015). 論点整理. 文部科学省]



### 視点3 目的に応じた弾力的な振り返りを設定する

学びの文脈を生むうえで、重要なポイントなるのが、振り返りです。子供は振り返りにより、学びを子供自身が意味付けたり、わかったことやできるようになったことを自覚したりします。また、新たな疑問や課題をもつこともあるでしょう。これらが次の学びへと向かう原動力になるのです。

#### 視点3 目的に応じた弾力的な振り返りを設定する

- 目的に応じた弾力的な振り返りとは...

適切な場面・方法により、子供が学びの成果や課題を実感し、次につなげる振り返り

そのために...

- 学びの価値（成果）を自覚化できるようにする
- 新たな疑問や課題を発見できるようにする
- 振り返りの目的や視点を子供自身が理解できるようにする
- 振り返りの共有化を図る
- 振り返りの視覚化を図る

図9 目的に応じて振り返りを弾力的に設定する

振り返りは単元や一単位時間のまとめ期のみ限定されるものではありません。一単位時間の開始期に前時の学びを振り返ることで課題意識を見出す学習展開もあれば、課題追究した結果から振り返りを通して新たな課題を設定する学習展開もあるでしょう。形式的な振り返りではなく、適切な場面・方法により、子供が学びの成果や課題を実感し、次につなげる、目的に応じた弾力的な振り返りを設定していくことの重要性が明らかになりました。

そして、振り返りでは次の点に留意が必要であることがわかりました。一つ目は振り返りの目的や視点を子供自身が理解しているということです。何のために振り返りを行っているのか、どのような視点で振り返ればよいかについては子供の実態に即した指導・支援が重要です。二つ目は振り返りの共有化です。学びの成果や課題は一人一人が見出すことが理想ですが、他者の振り返りの内容に触れることで、自己の学びを再度見つめることにつながるのです。三つ目は学びの視覚化です。学習場面の動画や写真、成果物など目に見える形で提示することで、子供は具体的に実感を持った振り返りにつながるのです。(図9)

なお、この視点3は中央教育審議会論点整理において示されている指導方法の不断の見直しの視点である「iii) 子供たちが見通しを持って粘り強く取り組み、自らの学習活動を振り返って次につなげる、主体的な学びの過程が実現できているかどうか<sup>5</sup>」との関連も見出すことができます。

## 【研究内容2】 各教科等において育成すべき資質・能力の明確化

### アクティブ・ラーニングが成立している＝資質・能力が育まれている

本校では、初等教育におけるアクティブ・ラーニングの目的を下記で検討する資質・能力の育成と捉えています。ですから、アクティブ・ラーニングが成立しているかどうかは、意図した資質・能力が育

<sup>5</sup> 子供自身が興味を持って積極的に取り組むとともに、学習活動を自ら振り返り意味付けたり、獲得された知識・技能や育成された資質・能力を自覚したり、共有したりすることが重要である。子供の学びに向かう力を刺激するためには、実社会や実生活に関わる主題に関する学習を積極的に取り入れていくことや、前回改訂で重視された体験活動の充実を図り、その成果を振り返って次の学びにつなげていくことなども引き続き重要である。[教育課程企画特別部会。(2015). 論点整理. 文部科学省.]

まれているか判断する必要があります。したがって、それを判断するうえで、どのような資質・能力を育成すべきなのかが明確になっていないといけません。

昨年度の研究の成果として、「初等教育におけるアクティブ・ラーニングで育成する資質・能力」表2を整理することができました。ただし、この資質・能力は教科等を横断する汎用的な資質・能力であり、各教科等において育成すべき資質・能力の明確化までには至っていません。そこで、今年度はまず、各教科等において育成すべき資質・能力の明確化を図ります。そして、アクティブ・ラーニングによって子供の資質・能力が育まれる、アクティブ・ラーニングの具体を検証していくことにしました。

### 資質・能力の「三つの柱」の基づき各教科で育成すべき資質・能力を具体化する

現在、次期学習指導要領改訂に向け、中央教育審議会では教科等別にワーキンググループ等を設置し、専門的に様々な検討がなされています。その中で、各教科等で育成すべき資質・能力のたたき台が提案されています。そこで私たちは、提案された資質・能力の「三つの柱<sup>6</sup>」を「発達段階」の観点から具体化することを試みました。

その方法を図10に基づいて説明します。まず、ワーキンググループで提案された資質・能力を押さええます。次に現行の学習指導要領解説と国立教育政策研究所の「評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料」を活用し、その文言から資質・能力の「三つの柱」と「発達段階」の違いを読みとります。さらに、本校で作成済みの「初等教育におけるアクティブ・ラーニングで育成する資質・能力」表2の要素を加えました。各教科等で作成したものを資料として掲載しています。

---

<sup>6</sup> 三つの柱とは教育課程企画特別部会。(2015). 論点整理の中で示された 1)「何を知っているか、何ができるか(個別の知識・技能)」2)「知っていること・できることをどう使うか(思考力・判断力・表現力等)」3)「どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか(学びに向かう力、人間性等)」のことを指します。

<sup>7</sup> 指導案集p参照なお、国語科の言語能力は各教科の土台となる資質・能力と押さえ、より具体化された内容にしています。

各教科等において育成すべき資質・能力 出典:北海道教育大学附属函館小学校

＜体育科運動領域における発達段階を踏まえた育成すべき資質・能力＞

	個別の知識や技能 (何を知っているか、何ができるか)	思考力・判断力・表現力 (知っていること・できることをどう使うか)	学びに向かう力、人間性など (どのように社会・世界とかわりよりよい人生を送るか)
第一・二学年	○運動を楽しく行うための、体の基本的な動きや各種の運動の基礎となる動き。	○各種の運動を楽しむための活動の仕方や競争のルールなどを工夫する力。 ○運動する中で生じた思いや願い、気付きなどを言葉や動作等で表現する力。	○順番やきまりを守って仲よく運動したり、協力して仲よく勝敗を競ったり、安全に気を付ける態度。 ○各種の運動に進んで取り組む態度。
第三・四学年	○各種の運動を楽しく行うための、基本的な動きや技能。 ○各種の運動を安全に行う基本的な知識。	○運動の楽しさに触れたり、動きや技能を身に付けたり体力を養ったりすることに向けて、動き方・運動する場・練習の仕方などを工夫する力。 ○運動する中で生じた課題や、仲間の学びのよさを言葉や動作等で表現する力。	○きまりを守り、勝敗を受け入れるとともに、安全を確かめ、仲間と学びのよさを認め合いながら運動する態度。 ○学習課題の達成に向かって最後までやり遂げる態度。
第五・六学年	○運動の楽しさや喜びを味わうための、各運動領域の特性に応じた基本的な動きや技能。 ○各種の運動の行い方についての基本的な知識。	○運動の楽しさに触れたり、技能を身に付けたり体力を高めたりすることに向けて、動き方・運動する場・練習の仕方などを工夫する力。 ○運動する中で生じた課題や、その解決方法を仲間と共有したり、合意形成したりしながら、課題解決を図る力。	○協力、公正な態度で、安全を確かめ、相手を尊重しながら運動する態度。 ○学習課題の達成へ向けて全力を出して運動に取り組む態度。

② 資料を活用し「資質・能力」と「発達段階」を読み取る。

小学校学習指導要領解説  
体育編

学習指導要領解説  
出典:文部科学省

の工夫改善のための参考資料  
の活用方法について

評価規準の作成、評価方法等の  
工夫改善のための参考資料  
出典:国立教育政策研究所

③ 「初等教育におけるアクティブ・ラーニングで育成する資質・能力」の要素を加味する。

開始期	・よりよい学習環境の工夫を促す ・個別解決の方法や手段を教え、経過をもつ	・よりよい学習環境の工夫を促す ・個別解決の方法や手段を教え、経過をもつ
展開期	<p><b>主体的に問題を発見する</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・状況や条件を分析・整理・統合する</li> <li>・多様な視点から、課題を捉えたりする</li> <li>・情報を整理・分析する</li> <li>・自分の考えを形成・深化させる</li> <li>・自分の考えを表現する</li> <li>・数々の考えを比較する</li> <li>・自分の考えを修正する</li> <li>・自分の考えを共有する</li> <li>・自分の考えを説明する</li> <li>・自分の考えを評価する</li> <li>・自分の考えを改善する</li> <li>・自分の考えを共有する</li> <li>・自分の考えを説明する</li> <li>・自分の考えを評価する</li> <li>・自分の考えを改善する</li> </ul>	<p><b>協力的に問題を解決する</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の考えを共有する</li> <li>・自分の考えを説明する</li> <li>・自分の考えを評価する</li> <li>・自分の考えを改善する</li> <li>・自分の考えを共有する</li> <li>・自分の考えを説明する</li> <li>・自分の考えを評価する</li> <li>・自分の考えを改善する</li> </ul>
まとめ期	<p><b>自分の学習を振り返り、次の学習に生かす</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習を振り返り、自分の学習で学んだことを、次の学習に生かす</li> <li>・自分の学習を振り返り、自分の学習で学んだことを、次の学習に生かす</li> <li>・自分の学習を振り返り、自分の学習で学んだことを、次の学習に生かす</li> </ul>	<p><b>自分の学習を振り返り、次の学習に生かす</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習を振り返り、自分の学習で学んだことを、次の学習に生かす</li> <li>・自分の学習を振り返り、自分の学習で学んだことを、次の学習に生かす</li> <li>・自分の学習を振り返り、自分の学習で学んだことを、次の学習に生かす</li> </ul>

初等教育におけるアクティブ・ラーニングで育成する資質・能力  
出典:北海道教育大学附属函館小学校

資質・能力の三つの柱に沿った、小・中・高を通じて育成すべき資質・能力の整理イメージ (体育科・保健体育科) (検討素案 Ver. 5) 平成28年4月28日 体育・保健体育、健康、安全WG 資料10

小学校 体育	個別の知識や技能 (何を知っているか、何ができるか)	思考力・判断力・表現力等 (知っていること・できることをどう使うか)	学びに向かう力、人間性等 (どのように社会・世界と関わり よりよい人生を送るか)
運動領域	<p>① ワーキンググループで提案された資質・能力の三つの柱を押さえ、これをベースとして考える。</p> <p>各種の運動が有する特性や魅力に応じた知識や技能 ・各種の運動の行い方についての基本的な知識 ・各種の運動を行うための技能</p>	<p>自己の能力に適した課題をもち、活動を選んだり工夫したりする思考力・判断力・表現力等</p> <p>・自己の能力に適した課題に気付く力 ・自己の課題を解決するための活動を選んだり、運動の行い方を工夫したりする力 ・思考し判断したことを、言葉や動作等で他者に伝える力</p>	<p>運動の楽しさや喜びを味わい、明るく楽しい生活を営むための態度</p> <p>・進んで学習活動に取り組む ・約束を守り、公正に行動する ・友達と協力して活動する ・自分の役割を果たそうとする ・友達を認める ・安全に気を配る</p>
<p>ワーキンググループで提案された資質・能力 出典:中央教育審議会</p>			

図10 各教科で育成すべき資質・能力の具体化方法

図11に示された各教科等において育成すべき資質・能力を各単元において目標として具体化します。

そして、それを評価するための評価規準の設定を試みました。ここでは、従来の目標に準拠した評価<sup>8</sup>の考え方である「関心・意欲・態度」、「思考・判断・表現」、「技能」及び「知識・理解」の4観点と資質・能力の「三つの柱」との関連性を図11に示したように押さえました。「関心・意欲・態度」は「学びに向かう力、人間性等」、「思考・判断・表現」は「思考力・判断力・表現力等」、「技能」及び「知識・理解」を統合し「知識や技能」とし評価規準の観点とすることにしました。この三つの観点で教科目標の達成および資質・能力の育成を評価していくことにしました。

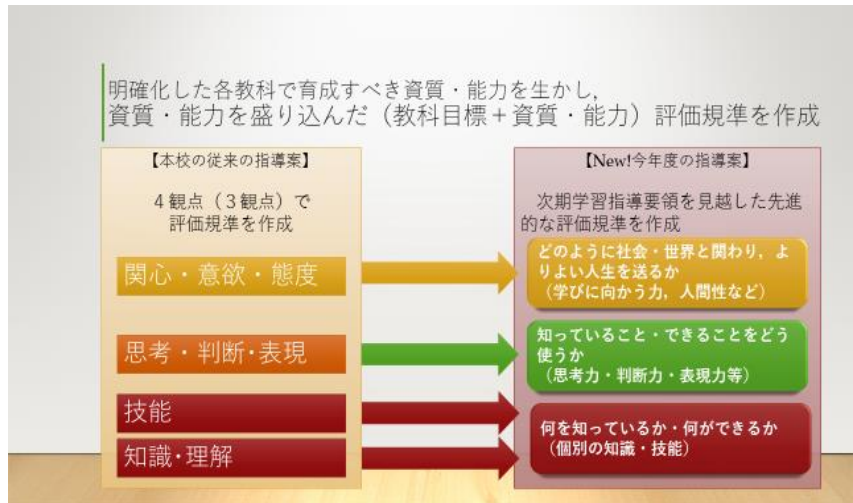


図11 資質・能力を盛り込んだ評価規準を作成

ただし、「各教科等において育成すべき資質・能力」や「資質・能力を踏まえた評価規準」は試案であり、今後の実践研究により修正・改善を図っていきます。

<sup>8</sup> 目標に準拠した評価は、学習指導要領に示す目標に照らしてその実現状況を評価するものであり、観点別学習状況の評価を基本として、児童生徒の学習の到達度を適切に評価していくことが重要となります。学習評価に関する基本的な考え方について、「学習評価における観点」については、新しい学習指導要領を踏まえ、「関心・意欲・態度」、「思考・判断・表現」、「技能」及び「知識・理解」に整理し、各教科等の特性に応じて観点を示している。設置者や学校においては、これに基づく適切な観点を設定する必要があることと示しています。[学習評価に関する Q&A. (2010). 文部科学省]



## 今年度の研究内容まとめ

以上のことから、本年度の研究は【研究内容1】『『三つの視点』を生かしたアクティブ・ラーニングの授業実践』により子供の資質・能力を育成していきます。そして、【研究内容2】『各教科等において育成すべき資質・能力の明確化』により、意図した資質・能力が育成されているかについて評価規準を設定し検証していきます。(図12)

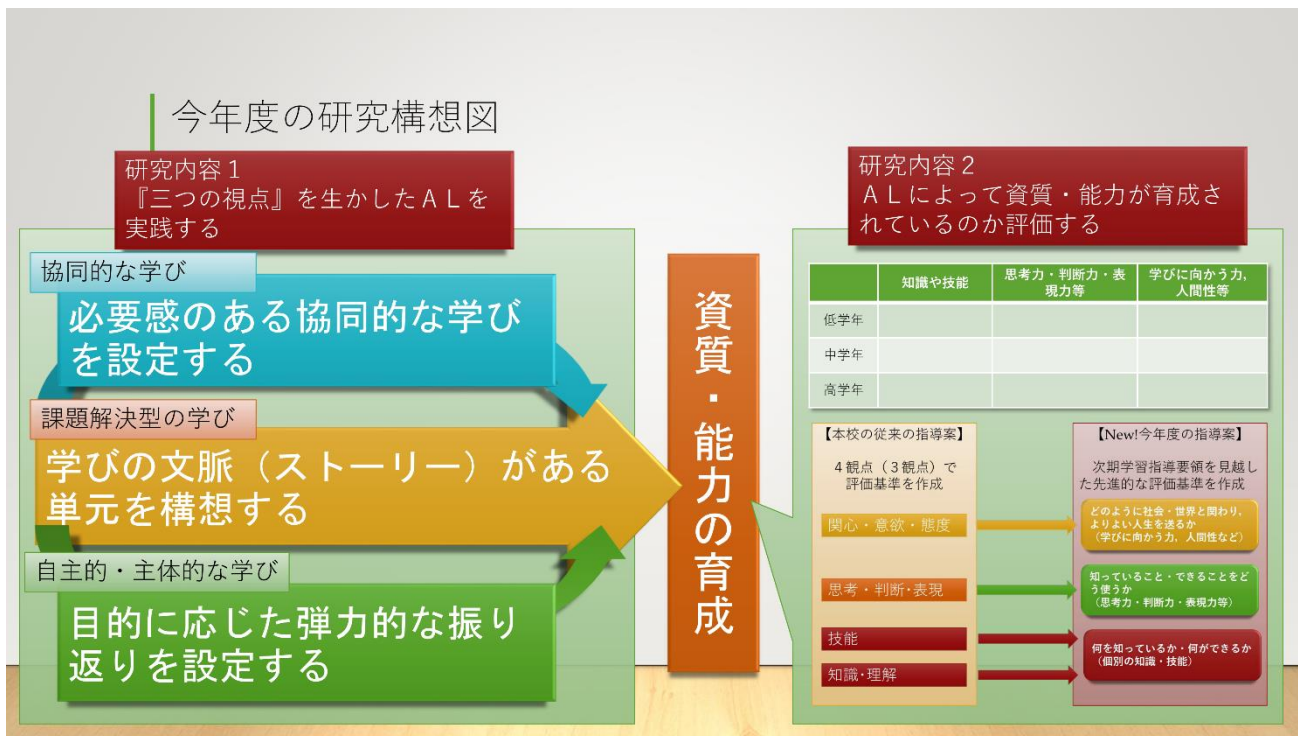


図12 平成28年度研究構想図

### 3. 指導案形式

本研究大会の指導案形式について説明します。

2次授業 3年 体育

#### 「リズムダンス」(7時間扱い)

各教科で育成すべき資質・能力を踏まえて目標を設定します。【研究内容2】

##### 1. <単元について>

目標： フェアプレイ（全力・ルール順守・相手尊重・安全第一）で、リズムに合わせて即興的な表現や簡単なひとまとまりの表現で踊るとともに、リズムにあった動きや新たな動きを考え、友達の動きを自分の踊りに生かしたりしながら、工夫して踊りを楽しむことができるようにする。

リズムに合わせて踊る楽しさを十分に味わえるように単元を構想する。単元序盤は教師がリードし、楽しい雰囲気の中で踊ることができるようにする。また、少人数（2～7人程度）で友達と一緒に踊る学習形態により、友達に踊りを見られることに慣れ、友達と踊る楽しさを感じさせながら学習を展開していく。

単元中盤では、リズムにあった動きや新たな動きを見つけることを目指す。その際も動きを止めて振り返りをじっくりと考えるよりも、リズムに合わせて踊りながら、即興的に出てきた表現を大切にしていける。振り返りでは、新しい踊りを紹介し合い、その踊りをみんなで踊ることで、リズムに合わせて踊る楽しさや新たな動きなどを実感できるようにする。また、学習課題意識、学習への思いや願いなどを把握し、子供にとって必要感のある学び

そして、単元終末にはダンスパーティーの活動を位置付ける。これは、積み重ねを生かし、チームで踊りを披露し合う活動である。ダンスパーティーでは振り子を単に見るのではなく、まねして一緒に踊ることで、そのチームの踊りのよさとともに、踊る楽しさや学習の成果を実感できる場としていく。

教科等で育成すべき資質・能力を発達段階に応じて示します。指導案上には対象学年のみ記載しています。【研究内容2】

##### 2. <体育科における発達段階を踏まえた育成すべき資質・能力>

	個別的知識や技能 (何を知っているか、何ができるか)	思考力・判断力・表現力等教科等の本質に根ざした見方や考え方等 (知っていること・できることをどう使うか)	学びに向かう力、人間性 (どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか)
第三四年生	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 各種の運動を楽しく行うための、基本的な動きや技能。</li> <li>○ 各種の運動を安全に行う基本的な知識。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 運動の楽しさに触れた動きや技能を身に付けたり体力を養ったりすることに向けて、動き方・運動する場・練習の仕方などを工夫する力。</li> <li>○ 運動する中で生じた課題や、仲間の学びのよさなどを言葉や動作等で表現する力。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 学習課題最後までやる</li> </ul>

※ この資質・能力は年間を通して育むものですので、本単元のみで育成するというものではありません。

##### 3. <育成すべき資質・能力を踏まえた単元の評価規準>

個別的知識や技能 (何を知っているか、何ができるか)	思考力・判断力・表現力等教科等の本質に根ざした見方や考え方等 (知っていること・できることをどう使うか)	学びに向かう力、人間性等情態、態度等に関わるもの (どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか)
評価1	評価2	評価3
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 軽快なリズムに合わせて、全身で弾んで踊ったり、即興的な表現や簡単なひとまとまりの表現で踊ったりすることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 踊りの楽しさを味わうために、自分のめあてをもち、それに向けて動き方や活動を工夫している。</li> <li>○ リズムに合った動きや新たな動きを考え、みんなに伝えたり、友達の動きを自分の踊りに生かそうとしたりしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ フェアプレイ（全力・ルール順守・仲間尊重・安全第一）を意識して、進んでリズムダンスに取り組みようとしている。</li> <li>○ 友達と踊ることの楽しさを感じ、友達と認め合い、アドバイスをしながら活動している。</li> </ul>

育成すべき資質・能力を踏まえた本単元の目標の達成状況の評価するためのものです。【研究内容2】

俯瞰的に単元を把握できるよう意図し、文脈のある学びになるよう構想した単元の大まかな流れを示しています。(視点1)また、「必要感のある協同的な学び(視点2)」と「目的に応じた弾力的な振り返り(視点3)」が単元のどこで展開されるか示しています。【研究内容1】

4.《研究とのかかわり》  
「三つの視点」を生  
要性、関連性を自覚し  
必要感のある協同的な学

(1) 学びの文脈がある単元を構想する

単元開始期	単元展開期①			単元展開期②			単元まとめ期
	1	2	3	4	5	6 [本時]	7
課題	学習の見通しをもち、曲のリズムに合わせ、先生の動きや指示をもとに踊ってみよう。	ペアやチームで、色々なリズムに合わせ、即興的な動きや、よい動きを組み合わせながら踊ってみよう。色々な動きを見つけよう。	チームで、学んだ動きを生かして練習し、チームダンス交流をしよう。	チームで、学んだ動きを生かして練習し、チームダンス交流をしよう。			「ダンスパーティー」で交流し、学んだことを振り返ろう。
開始期	○オリエンテーション ・ねらい ・学習の流れ(学び方) ・準備するもの ・学習カード ・学習のマナー などを確認する	○ 前時の振り返りや子供との話し合いにより課題設定する。	○ 前時の振り返りや子供との話し合いにより課題設定する。	○ 前時の振り返りや子供との話し合いにより課題設定する。			○ 課題設定をする
展開期	○リズム取り ○先生のものまねダンス ○ゲーム・チャイム・ハーダンス ○振り返り	○ 色々なリズムに合わせて即興的に踊る。 ・ペアを組みダンス。 ・ペアを合体してダンス。 ・踊りたい人とダンス。	○ チームでダンスをつくる。 ・学んだ動きを生かす。 ・新たな動きを見付ける。 ○ ダンス交流 ・2チームでダンスを交流する。	○ チームでダンスをつくる。 ・学んだ動きを生かす。 ・新たな動きを見付ける。 ○ ダンス交流 ・2チームでダンスを交流する。			○ 各チームのダンスを全員でまねして踊る。
まとめ期	○振り返り	○振り返り ・友達に紹介したい新しい動きを紹介する。 →みんなで踊ってみる。 ・学習カードを記入する。	○振り返り ・友達に紹介したい新しい動きを紹介する。 →みんなで踊ってみる。 ・学習カードを記入する。	○振り返り ・友達に紹介したい新しい動きを紹介する。 →みんなで踊ってみる。 ・学習カードを記入する。			○単元の振り返り ・学習成果や友達への学びのよさを認め合う。

- (2) 必要感のある協同的な学びを設定する
- 少人数で一緒に踊ることで、踊りに対する恥ずかしさを緩和する。
  - 少人数で一緒に踊ることで、多様な動きを見つけ、その動きを自分の踊りに取り入れることができるようにする。
  - ダンス交流では、チームの踊りを単に見るのではなく、まねして一緒に踊ることで、多様な踊りに触れ、そのよさを実感できるようにする。
  - まねして一緒に踊ることで、友達と一緒に踊る楽しさを感じることができるようにする。

友達と一緒になら、踊るのはあまり恥ずかしくなくなった。

ペアでお互いの動きをまねし合って踊ろう。

友達がまねして踊ってくれるのがうれしいな。

友達と踊ると一人よりもたくさんアイデアが浮かぶぞ。

友達のいい動きを僕も取り入れてみよう。

チームでダンスを考えて交流したい。

- (3) 目的に応じて振り返りを弾力的に設定する
- 学習カードを活用し、子供が成果や次のめあてを明確にできるようにするとともに、学習カードから子供の課題意識、学習への思いや願いなどを把握し、必要感のある学びを展開する。
  - 毎時間「今日のMVP」を友達の中から見つけ、学習カードに記入することで、友達のよさを認め合えるようにする。
  - 学習カードの記述を一覧表にまとめ、子供に配付することで、友達のめあて、学習成果、友達のよさを共通理解する。
  - 振り返り場面では、新しい踊りを紹介し合い、その踊りをみんなで踊ることで、リズムのって踊る楽しさや動きの広がりなどを実感できるようにする。
  - 撮影した動画を見る場を設定し、自分の踊りを客観的に見ることで、成果や課題が実感できるようにする。

「必要感のある協同的な学び(視点2)」と「目的に応じた弾力的な振り返り(視点3)」を具体的に示しています。【研究内容1】

学習活動での具体的な子供の姿を想定し、学びの文脈（連続性、必要性、関連性のある学び）がある単元を構想します。（視点1）【研究内容1】

5. <<単元計画>>

	学習活動 (○) と子供の姿	教師の支援 (☆) と評価 (◇)
開始期 (1時間目)	<p>【1時間目】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 学習の課題や進め方を知る。</li> <li>課題：学習の目標と学び方を理解して見通しをもとう。</li> </ul> <p>ダンス楽しみ！早く踊りたい。</p> <p>ダンスは恥ずかしいなあ。</p> <p>どんな曲で踊るのかな？</p> <p>みんながフェアプレイで踊れば大丈夫かな…。</p>	<p>意欲を高め、見通しをもって参加しようとしている。</p> <p>事前アンケートをもとに、学習計画や学習のマナーを伝える。</p> <p>自主的に学習を進められるよう、用具の準備や学習の流れ、学習カードや学習資料の活用の仕方を説明する。</p> <p>踊ることが恥ずかしいと感じている友達がいることを提示し、みんなが楽しめるダンスの学習のためのマナーを意識できるようにする。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 楽曲を聞き、体を動かしながらリズムをつかす。</li> <li>首でリズムをとってみよう。</li> <li>ヘソでリズムをとるのが大切なんだって。</li> <li>○ 課題を理解する。</li> <li>課題：先生の動きをまねして、リズムに合わせて踊ってみよう。</li> </ul> <p>先生のマネをすればいいんだね。</p> <p>できるかな？不安だな。</p> <p>リズムの違う曲で教師の動きをまねして踊ってみる。</p> <p>先生のマネをするのおもしろいな。</p> <p>先生のマネならできそう。</p> <p>3つの動きを決めて踊ってみる。</p> <p>「グー」のときはジャンプすればいいんだね。</p> <p>「チョキ」のときはサイドステップか。</p> <p>自分たちで動きを決めて踊ってみよう。</p> <p>○ 学習を振り返り、学習カードを書く。</p> <p>思ったよりも楽しかった。</p> <p>もっと動きをふやした方が楽しそう。自分たちで動きを考えたい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>☆ リズムにのる楽しさが味わえるよう、簡単なリズム遊びから活動をスタートする。</li> <li>首・ヘソ・手・足踏み・ジャンプ・サイドステップ など</li> <li>☆ どう動いてよいかわからない子供のために、教師の動きをまねする活動を取り入れる。</li> <li>◇ フェアプレイ（全力・ルール順守・仲間尊重・安全第一）を意識して、進んでリズムダンスに取り組もうとしている。</li> <li>☆ 子供の動きを活性化するように、意欲的に体を動かしている子やリズムに合わせている子を賞賛する。</li> <li>☆ 即興的に踊ることができるよう、教師の指示に応じて動きを変えて踊る「グー・チョキ・パー」ダンスを取り入れる。</li> </ul> <p>「グー」「ジャンプ」 「チョキ」「サイドステップ」 「パー」「手をたくく」など動きを決めて踊る。</p> <p>◇ めあてを振り返り、学習の成果や課題を明らかにしている。</p> <p>☆ 子供の気付きや課題意識を捉えるために、学習カードに記述する場を設定する。（※毎時行おう）</p> <p>【目的に応じた弾力的な振り返り】</p>
展開期① (2、3時間目)	<p>【2時間目】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 前の時間の振り返りを生かし課題を設定する。</li> <li>自由にペアやチームを組んで踊ろうよ。</li> <li>もっと自由に踊りたい。</li> </ul> <p>課題：ペアやチームでダンスをして、新しい動きを見つけよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ ペア・チームで踊りながら、動きをふやす。</li> <li>ジャンプは同じでも手の動きを変えてみたらどうかな？</li> <li>動物やスポーツの動きをダンスに取り入れてみたよ。</li> <li>新しい動きをふやすのは楽しいけど難しい。</li> <li>みんなはどんな新しい動きを考えたのかな？</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 新しい動きを交流する。</li> <li>僕たちはペアでハイタッチをする動きを考えました。</li> <li>同じ動きでもスピードを変えてみました。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 学習カードを記入する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>☆ 前の学びが生かされ、子供の必要感のある学びを大切にするために、振り返りの内容から本時の課題設定を行う。【目的に応じた弾力的な振り返り】</li> <li>◇ 軽快なリズムによって、全身で弾み即興的な表現で踊ったりすることが</li> <li>☆ 踊りの抵抗感を少なくし、友達とつながりながら新たな動きが生まれるよう、少人数で踊る活動を取り入れる。【必要感のある協同的な学び】</li> <li>☆ 模倣（ものまね）・かけ合い・シンクロなど、動きづくりに関わるポイントを引き出すことができるよう、上記の視点をもって新しい動きを具体的に評価する。【目的に応じた弾力的な振り返り】</li> <li>◇ めあてを振り返り、学習の成果や課題を明らかにしている。</li> <li>☆ 成果や課題が実感できるように、撮影した動画を見る場を設定する。【目的に応じた弾力的な振り返り】</li> </ul>
	<p>【3時間目】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 振り返りを生かし課題を設定する。</li> <li>自由にチームを組んで踊ろうよ。</li> <li>グー・チョキ・パーじゃなくてもっと自由に踊りたい。</li> <li>○ 新しい動きづくりの視点（スパイス）を知る</li> </ul> <p>課題：踊りの「スパイス」を生かし、ペアやチームで踊りながら新しい動きを見つけよう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>☆ 前の学びが生かされ、子供の必要感のある学びを大切にするために、振り返りの内容から本時の課題設定を行う。【目的に応じた弾力的な振り返り】</li> <li>☆ 学習カードの記述や振り返りの話題を生かしてスパイス（動きづくりの視点）を提示する</li> </ul>

評価規準を示しています。  
【研究内容2】

「必要感のある協同的な学び(視点2)」と「目的に応じた弾力的な振り返り(視点3)」に関わる支援には下線を引いています。【研究内容1】



各教科で育成すべき資質・能力を踏まえて本時の目標を設定します。【研究内容2】

6. 《本時案》(本時 6/7)

**本時の目標**  
動きづくりの視点を生かし、リズムに合った動きや新たな動きを考え、友達の動きを自分の踊りに生かそうとするなど、工夫して踊りを楽しむことができるようにする。

	学習活動 (○) と子供の姿	教師の支援 (☆) と評価 (◇)
開始期	<ul style="list-style-type: none"> <li>一曲チームダンスをする。</li> <li>前時の振り返りや学習意識を高める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>☆ ダンスの学習に向け、心と体を解放できるよう、踊る場を設定する。</li> </ul>

学習活動での具体的な子供の姿を想定し、学びの文脈(連続性, 必要性, 関連性のある学び)がある本時を構想します。(視点1)【研究内容1】

課題(ねらい)  
チームで「スパイス」

○ 学習の流れを確認する。

学習の流れや交流チームなどを確認する。

○ チームダンスに取り組む  
このリズムのはこんな動きがびったりだよ!  
あこのチームのストップモーションを僕たちも取り入れよう。

「かけ合い」と「シンクロ」をバランスよく入れた踊りにしよう。

この曲には「かけ合い」がばっちり合うよ!

◇ 動きづくりの視点を生かし、リズムに合った動きや新たな動きを考えて踊ったり、友達の動きを自分の踊りに生かそうとしたりするなど活動を工夫している。評価2

☆ 動きづくりで悩んでいるチームに具体的な「スパイス」を提示し、一緒に考え、動きづくりのイメージをもつようにする。  
☆ 踊りにメリハリが「かけ合い」や「シンクロ」の「スパイス」を添える。

本時の目標の達成状況を評価するため、単元の評価規準を具体化し、本時の評価規準を設定します。【研究内容2】

踊りの「スパイス」例(踊りづくりの視点)  
「ストップモーション」「テンポアップ」「移動(前後・左右)」「カクカク」「ジャンプ」「すり足」「フィニッシュポーズ」「ジャンプ」「ステップ」「もみせい」など子供の学びの成果から生み出したり教師からの提示した

○ 2チームで互いのダンスを見合う。(見ているチームはものまねダンス)  
他のチームのダンスが楽しみなね。どんなダンスなのかな?  
相手チームも、まねして踊ってくれてるからうれしい!

あの動きすごい!まねしたい。

「かけ合い」スパイスをうまく取り入れているね。

☆ 学習の成果や他のチームのよさを実感できるよう、相互に発表する場を設定する。その際、一緒に踊ることで、協同的に学ぶ意識を高め踊る楽しさを感じることができるようにする。【必要感のある協同的な学び】  
☆ 踊りを通して一体感が生まれることが感じられるよう、一つのチームの踊りを全チームで真似する場を設定する。

○ 新しい動きの交流をする。  
あのチームのストップモーションを生かしたダンスすごい!  
○ 学習カードを書く。  
最後の学習ではみんなでいっぱい踊りたいな。

他のチームのダンスをまねして踊るのもとても楽しいな。

今までの動きを生かしてみんなでダンスを楽しみたい

☆ 互いの学びのよさを認め合い、新たな動きの共有化を図るために、動きを交流する場面を設定する。【目的に応じた弾力的な振り返り】

◇ めあてを振り返り、学習の成果を明らかにしている。  
☆ 子供の気づきや課題意識を捉えるために記述する場を設定する。

単元計画と同様に「必要感のある協同的な学び(視点2)」と「目的に応じた弾力的な振り返り(視点3)」に関わる支援には下線を引いています。【研究内容1】

## 引用・参考文献

教育課程企画特別部会. (2015). 論点整理. 文部科学省.

溝上慎一. (2014). アクティブラーニングと教授学習パラダイムの転換. 東信堂.

国立教育政策研究所. (2013). 教育課程の編成に関する基礎的研究報告書 5.

国立教育政策研究所. (2015). 資質・能力を育成する教育課程の在り方に関する研究報告書 1. 国立教育政策研究所.

国立教育政策研究所. (2015). 生徒指導リーフ Leaf.18. 文部科学省.

市川伸一. (2007). 学ぶ意欲の心理学. PHP 新書.

杉江 修治. (2011). 協同学習入門-基本の理解と 51 の工夫-. ナカニシヤ出版.

石井 英真. (2015). 今求められる学力と学びとは. 日本標準.

中央教育審議会. (2014). 初等中等教育における教育課程の基準等の在り方について(諮問).

田村 学. (2015). 授業を磨く. 東洋出版社.

田中 耕治. (2011). パフォーマンス評価 思考力・判断力・表現力を育む授業づくり. ぎょうせい.

文部科学省. (2010). 学習評価に関する Q&A.

文部科学省. (2011). 今, 求められる力を高める総合的な学習の時間の展開.

文部科学省. (2012). 新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて～生涯学び続け, 主体的に考える力を育成する大学へ～(答申) 用語集.

文部科学省. (2014). 初等教育資料 4 月・9 月号. 東洋出版社.

北海道教育大学附属函館小学校. (2008~2014). 研究紀要. 北海道教育大学附属函館小学校.